

令和7年度 第2回 学校運営協議会

1 期 日：令和7年9月30日（火） 17：30～18：30

2 場 所：図書室

3 出席者：委員（校長含む）10名、事務局1名

4 会次第

（1）開会

（2）学校長挨拶

（3）報告・協議

①令和8年度 入学希望者募集等について

②令和8年度 入学希望者募集に係る周知・広報活動計画について

③学校説明会・体験授業実施報告

④学校生活及び学習状況報告

（4）諸連絡

5 議事録（○委員、●校長・事務局）

①令和8年度 入学希望者募集等について

○入学希望者募集期間が延びたのはよかった。3月の公立高校の結果発表後も募集をするのはとても良い。

○学校内に託児所が設けられないか。学校の案内やポスターを精神科や小児科等の病院に貼れないか。心理士協会などにもアピールできないか。妊娠して高校を中退した母親で、お金が無いから塾も難しい若い母親が学べる夜間中学があったらありがたいという声がある。10代、20代の母親で昼間に仕事をしていて夜、子どもを預けないと勉強ができない人たちがいる。また、保護者が高校進学への意識が希薄な家庭の子どもが病院で（夜間中学の）ポスターを目にできるようになるといい。また、医者やソーシャルワーカーたちにこのような知識があると全然違うと思う。

○追加募集についてはうまく説明する必要がある。

○経済的な理由で広域制通信高校やサポート校への進学を悩む生徒もいる。また、不登校経験者でも外に出られる生徒は佐賀商業や佐賀工業の定時制、北高の通信制、太良高校や厳木高校などの選択肢があるが、それも難しい生徒もいる。距離的な問題もある。（くすの実で）不登校の生徒の中で高校進学希望をしているのは14%程度。くすの実にも来れていない子どもへどのように情報を届けるのか。

②令和8年度 入学希望者募集に係る周知・広報活動計画について

○福岡では「親の会」などで、不登校経験者を対象とした高校、定時制高校、通信制高校の合同の説明会がある。広域通信制高校はゴールデンウィークあたりから説明会があり、募集も行っている。(中学3年生の) 学校関係者向けの説明会が10月では遅い。10月なら中学2年生向け。中学校職員向けならもっと早い時期に、一学期や5月に説明会の実施をお願いしたい。

●10月に中学校訪問をしていく予定。10月には校長会が行われ、中学校では11月から三者面談があるため、入学募集案内を渡して校長会で(学年や生徒に) 情報提供をお願いする。

●要項等は7月の教育委員会を経る必要があるため、4月から準備を始めて9月に印刷し、説明会が10月に始まっている状況。早い時期の説明会については知らなかった。生徒が通信制高校に入学した後のことを(中学校の) 校長には考えてもらいたいと説明していきたい。中学校、もしくは小学校の時から不登校の子どもさんが通信制高校に合格されるかもしれないが、入学した後に苦労されるのではないかと心配している。入学したのち、進路変更や休学もあると聞いている。一年間遅れるかもしれないが、(夜間中学で) 生活習慣を立て直す、学習習慣を立て直す、人とコミュニケーションをとるといった力を身に付けてから通信制高校に進学するのによいのではないかというアピールができると考えている。

③学校説明会・体験授業実施報告

○職場に声をかけ、ぜひ話を聞きに行きたいと思っている。

④学校生活及び学習状況報告

○アンケートについて。「授業が楽しい」「授業が分かりやすい」は別方向の質問なので、個別の質問にした方が生徒は答えやすい。

○アンケートは%よりも実数で示した方が分かりやすい。記名式で生徒が分かれば指導に生かせるのではないか。

○ボランティア活動を探しているのであれば、10月30日からバルーンフェスタがあるので、そのようなイベントのボランティア活動への参加というの也不错ではないか。

○現2、3年生は何年生から入学・編入したのか。

●現2年生は昨年度1年生に入学・編入している。高校進学を念頭にしている生徒は1年でも早く卒業したいと考え3年生に編入するが、昨年度は3年生の卒業が0だった。現3年生は2年生で編入した生徒と3年生で編入した生徒がいる。3年生で編入した生徒の中には、不登校の時に自宅で勉強していたとのことだったが、本校に編入して中学3年生の範囲を勉強していく中で学び直しが必要であることを実

感し、3年生に原級留置をしている生徒もいる。1年生で原級留置している生徒もいる。生活習慣の立て直しや学び直しをしっかりと行いたい場合は1年間だけでは厳しい。シニアの方々は1年間での学習習得が難しく、6年間在籍して計画的に進級していきたいと考え、熱心に学校生活を送っている。

○せめて1、2年生は10月、11月に入学・編入できないのか。幅広な方が生徒は集まるのではないか。

●進級にあたり、また、該当学年の学習内容の習得といった観点から半年間は在籍してもらいたいという考えにより、9月までの受け入れとなっている。

○学校の定義、あり方の見直しを3年をめどに行う必要があるのではないか。世間のイメージと相当かけ離れたレベルで支援を行っている。現場の先生たちが大変だろうとみている。あまりにも何でもやろうとしすぎると、何もかもが中途半端になり、現場が回らないようになってしまうのではないか。

●生徒の年齢層によって夜間中学での目的も大きく違う。本校は他の夜間中学と比べて10代の生徒が多い。大事にしたいのは、入学・編入してくる生徒の夢がどのようなもので、その夢をどのように実現させていくか、どのような方向に進むのか、叶えるための手立てをしっかりとりたいということ。

○こんなに一人一人の生徒に寄り添う学校があるのかと感動している。生徒数が50名程度になっても一人一人に寄り添えるのか。また、学齢期の生徒は入学できないのか。

●学齢期の生徒は受け入れられない。学びの多様化学校が学齢期の生徒を対象とした学校となる。寄り添いについては、職員数が年によって変わるために頑張るしかないと申し上げるほかないが、理想としては3学級と考えている。